

写真師たちの関東大震災

レンズ越しの被災地、横浜

Yokohama Photographers at the Time of the Great Kanto Earthquake

Captured Through Their Lens



Disaster of Yokohama, view of Honcho-dori from Yamashita-cho.



2021 1.30(土).....4.18(日)

横浜開港資料館

(旧英国総領事館)

YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

開館時間 | 9:30~16:30(入館は16:00まで) | 休館日 | 毎週月曜日
入館料 | 一般200円 / 小・中学生100円 / 横浜市内在住65歳以上100円

(主催)公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 (共催)横浜市教育委員会 (後援)朝日新聞横浜総局 / 神奈川新聞社 / 産経新聞横浜総局 / 東京新聞横浜支局 / 毎日新聞横浜支局 / 読売新聞横浜支局 / NHK 横浜放送局 / tvk

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、会期・開館時間等を変更する場合があります。最新情報は当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。 <http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

レンズ越しの被災地、横浜

写真師たちの関東大震災

情報技術が発達した今日、災害の情報はSNSなどを通じて瞬く間に世界へと広がっていきます。10年前の2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災においても、発災後の悲惨な状況は、テレビカメラだけでなく、様々な媒体に記録され、インターネットを通じて拡散していきました。こうした情報は、東日本大震災の惨状を後世に伝えていく上で重要な役割を果たしています。

しかし、インターネットはもろろん、テレビやラジオもなかった1923(大正12)年9月1日の関東大震災当時、災害の情報を記録したのは新聞社や通信社の職員、官庁の技術者、そして街中で写真館を営む写真師たちでした。彼らは被災しながらも焼け野原となった横浜の様子をカメラに収め、各方面に発信していきました。

関東大震災の写真は災害の記録をまとめた「災害誌」だけでなく、新聞やグラフィック誌、さらに絵葉書などの形で現在に残っています。本展示では、それらの原板、特に2018(平成30)年秋に鎌倉市内で発見された西野写真館旧蔵のガラス乾板を中心に、写真師たちが撮影した被災地、横浜の姿にせまっています。



1



2



3



展示構成

1. 大正期の横浜と街の写真館
2. 地震発生
3. 河川とその周辺
4. 山下町
5. 横浜市街中心部
6. 横浜港
7. 野毛山
8. 横浜駅
9. 伊勢山より市街地を望む
10. 写真師・岡本三朗
11. 写真師・前川謙三
12. 震災写真の伝播と記録化

4

関連講座

「関東大震災と災害写真—被災地・横浜の風景—」

2021年3月6日(土) 13:30~15:00

会場: 横浜開港資料館 講堂

講師: 吉田律人(横浜開港資料館 調査研究員)

定員: 40人

※事前予約制 詳細は決まり次第当館ホームページ等でお知らせします。

参加費: 500円

1. 横浜港内ヨリ郵船会社修葺 1923(大正12)年9月
2. 横浜市亀之橋落下修葺 1923(大正12)年9月
3. 横浜元町河岸修葺 1923(大正12)年9月
4. 西野写真館旧蔵関東大震災ガラス乾板写真
表面上…横浜市山下町ヨリ本町通 1923(大正12)年9月
表面下…横浜市修葺全景 1923(大正12)年9月
すべて当館蔵

事前予約(オンラインチケット)のご案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各時間の入場人数に上限を設けています。ご来館前に、オンラインにて日時指定入館券のご購入をお願いいたします。

※当館の受付窓口でも入館券をご購入いただけますが、入場人数の上限に達した場合はお待ちいただく場合がございます。

ご予約・ご購入はこちらから▶



案内図



横浜開港資料館(旧英国総領事館)

〒231-0021 横浜市中区日本大通3 TEL 045-201-2100

http://www.kaikou.city.yokohama.jp/ twitter@yoko_archives

アクセス

●東急東横線・みなとみらい線「日本大通り」駅③番出口から徒歩2分

●JR「関内」駅南口・市営地下鉄「関内」駅下車徒歩15分

●JR「桜木町」駅から市営バス「日本大通り駅東庁前」・「大棧橋」下車徒歩1分

次回展示予告

「江戸時代の日本とイギリス」(仮称)

2021年4月24日(土)~7月11日(日) (予定)